

## 中間報告

(報告期間 2017 年 12 月 17 日～2018 年 3 月 15 日)

### 基本情報

氏名：森 侑子 (国際ロータリー第 2710 地区 2017-18 年度地区補助金奨学生)

派遣クラブ：福山ロータリークラブ

カウンセラー：林 克士 氏

受け入れホストクラブ：DRFC Rotary International District 2360

教育機関：ヨーテボリ大学大学院

(The University of Gothenburg)

専攻分野：教育学研究-国際修士プログラム

(International Master's Programme in Educational Research)

## 学業面での成果

1月中旬まで取り組んでいた秋semester二つ目のコース「Research environment」では、今まで経験の無い研究方法に取り組むことができました。質的研究方法の一つであるオートエスノグラフィー（自己エスノグラフィ；autoethnography）というもので、研究者自身の経験が研究対象となります。大学の研究員にインタビューを行い、そのインタビューやグループワークを通じた私自身の経験を研究対象としてエッセイを執筆し、プレゼンテーションも行いました。2月からは春semesterが始まり、一つ目のコース「Research methodology, inquiry and data analysis」では、前コースで行った質的研究をさらに幅広く学ぶとともに、量的研究に関しても学ぶことができます。実際に政府が行った調査・研究を批判的に考察したり、既存のデータを使って分析を行ったり、将来必要になるであろう研究技術を磨くことができ非常にやりがいを感じています。また、修士論文執筆に向けた計画書の提出も行います。そして、次のコースではその計画書で選択した研究領域（質的・量的）によって二つのグループに分けられ、それぞれ異なったコース内容となっています。



グループプレゼンテーションの様子

## 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動

現地のロータアクトクラブの皆様との交流は、現在まで定期的に持つことができます。週に一度ミーティングが開かれており、これまで様々なイベントが開催されてきました。例えば、12月にはインテグレーション（ここでは人種統合・多様性の共存という訳が適切でしょうか）に関するセミナーが開かれ、異文化の中で生活している人として私自身もスウェーデンでの経験などをスピーチさせて頂きました。また、クラブメンバーの誕生日パーティーに呼んで頂いたり、プライベートでの交流もさせてもらっています。青少年交換委員長のRosmarie氏には、ロータリークラブの高校生交換留学生たちと交流する機会を設けて頂いたり、引き続き大変お世話になっております。



休日、アトラクション施設にて  
ロータアクトクラブの皆様と

これまでも様々なボランティア活動に参加していましたが、最も頻繁に関わっている団体はセーブ・ザ・チルドレンという子どもの人権擁護を専門とする国際 NGO です。スウェーデンでは「Rädda Barnen (スウェーデン語でセーブ・ザ・チルドレン)」という名前で知られており、私の住むヨーテボリ市でも難民の子ども支援、教育機会の提供など活発な活動がなされています。当初はボランティアの一員として教育支援のプロジェクトに参加していましたが、3月から新年度が始まり、ヨーテボリ市セーブ・ザ・チルドレンの委員会の正式な委員として参加させて頂けることになりました。また、ユニセフのプロジェクトにボランティアとして参加しています。そのプロジェクトでは、難民の子どもたちが暮らす施設に出向き、一緒に遊びながら子どもたちの人権が守られるよう活動を行ったり、ディスカッションを行ったりしています。また、赤十字のボランティアとして子どもたちに食事を提供するなど、スウェーデンの子どもたちと関わる機会も持つことができます。これらのボランティア活動を通して、これまでスウェーデンに対して持っていたイメージや知識が次々を変わってきています。例えば、充実した児童福祉で有名なスウェーデンですが、ホームレスの児童数増加が問題となっており、セーブ・ザ・チルドレンが積極的に支援を行っていたり、薬物依存の親が多い貧困層の地域でユニセフが支援を行っていたり、やはり、その国に“住むからこそ”わかることがあるのだと痛感しています。

#### 直面した課題、問題点等

特に現在取り組んでいるコースでは、統計ソフトを使った分析を行うなど、これまで苦手としてきた技術を克服しなければなりません。また、講義中には英語の統計用語が飛び交い、講義のスピードについていけるよう予習復習に割く時間がさらに増えました。ボランティアなどの学業以外での活動と上手くバランスを取りながら、真摯に取り組んでいきたいと思っています。

前回の報告書で課題として挙げたスウェーデン語の習得は、スウェーデン人の友人たちのおかげもあり、着実に上達しているように思います。また、スウェーデン政府が無料で提供しているスウェーデン語講座が始まったこと、特に難民の子どもは英語が話せないことも多く、ボランティア活動の中でどうしてもスウェーデン語を使わなければならない状況があることも、スウェーデン語習得をサポートしていると思います。しかし、まだ意思疎通できるレベルには至っていないので、これからも継続して取り組んでいこうと思います。

#### 今後の課題、目標

一年後には修士論文の執筆を本格的に始めることとなります。そのためにも、今のうちに関連する文献を読み、スウェーデンの児童福祉・教育に関する予備知識を蓄えるとともに、ボランティア活動や施設視察などを通して、実際の現場を自分の目で見られるよう努めていきたいと思っています。また、長期休暇中にインターンをしたいと考えています。限られた時間を有意義に使えるよう、計画をしっかりと練り一つ一つ取り組んでいきたいと思っています。